

AOI通信

静岡音楽館俱楽部情報誌
JUNE 2012 No.66

夏号

クロード・ドラングル
インタビュー

七夕をめぐって

CONCERT REPORT

AOIゆかりのアーティスト
眞田美恵奈さん(ピアノ)

静岡音楽館AOIの
市民会議委員ってどんな人?

シェフ池田のおいしいレシピ





写真提供：セルマー

2007年、AOIのために来日し、大旋風を起こしたサクソフォンのカリスマ、クロード・ラングル。2012年の今年、再び来日し、野平芸術監督によるAOI委嘱作品をはじめ、サクソフォンの魅力たっぷりのプログラムを聴かせてくださいます。この度、来日に先立ち、お話をうかがいました。

——前回のコンサートについて覚えていらっしゃいますか？

もちろんよく覚えています。静岡でのコンサートはサクソフォンとエレクトロニクスによる大掛かりなプログラムを、静岡の様な地方にある街で演奏するという初めての経験となりました。今までそういうタイプのプログラムは首都や大都市でしか演奏する機会がありませんでした。なぜなら、この様なエレクトロニクスを使用した音楽や現代音楽のプログラムはしっかりとした設備が備わってなければなりませんし、観客のニーズを考えると容易に地方でプログラミングすることはできないからです。しかし、前回の演奏会では技術的にとても優れたチームと、素晴らしい観客を得ることができました。観客の皆さんには視野が広く、受容力のある方々だと感じました。私は静岡県民の皆さんだけではなく、他の街からもわざわざこのプログラムを聴くために遠くから足を運んで下さったと知り、とても嬉しく思いました。前回のコンサートはAOIの施設、テクノロジーを駆使した非常に素晴らしいプロジェクトでしたし、私にとって音楽的にとても良い経験となった演奏会でした。

——静岡の印象はいかがでしたか？

私たちヨーロッパ人は、地方に住む人々は文化的な視野が狭く、文化施設等も大都市と比べて非常に少ないと考える習慣があります。ところが静岡に来てみると、東京や横浜、大阪等にあってもおかしくない素晴らしいコンサートホールがあり、人々は文化的な広い視野があることに驚かされました。そのうえ、静岡は東京などに比べて喧騒感がなく、住むにはとても快適でしょう。地方ならではの静けさもありつつ、文化的、生活的な快適さを合わせ持つ素晴らしい街ですね。

クロード・ラングル インタビュー

——サクソフォンを始めたきっかけを教えていただけますか？

私がサクソフォンを習い始めたのは9歳の時です。両親が音楽好きだったこともあり、当時からたくさんの音楽を聴いていましたが、私はどの楽器よりもサクソフォンの音が一番美しいと感じました。当時、リヨン音楽院の教授だったセルジュ・ビション先生の演奏を聴いた時に、この素晴らしい楽器を是非演奏してみたいと思いました。当時はサクソフォンのレパートリーについては全く知識がなかったのですが、サクソフォン独特の美しい音色に魅かれたのを覚えています。

——他の楽器を演奏したいとは思わなかったのですか？

私は絶対管楽器を吹いてみたいと思っていました。ピアノでもなく、弦楽器でもなく。父は私はヴァイオリンをやらせたがっていたのですが、私は息を使う楽器をやりたかったのです。

——もしサクソフォン奏者になっていなかつたらどんな仕事をしていたと思いますか？

パティシエ（菓子職人）か、建築家でしょうね。私はお菓子作りが大好きなのでよく作るのですが、もっと専門的なやり方で本格的にお菓子を作りたいです。そして建築家というのは私にとって一番素晴らしい職業です。人間の文化は住まいによって構築されていると思っています。建築は文化に釣り合い、文化は建築に釣り合ってきました。私たちは建築なしには何もすることができないのです。音楽も、絵を描くことも、何もかも。人間はとても壊れやすい繊細な生物なので、何か守ってくれる物が必要です。その中心が建築なのです。

——サクソフォンはジャズにも使われる楽器ですが、クラシック音楽でのサクソフォンとジャズ音楽でのサクソフォンの違いはどこにあると思われますか？

楽器の使われ方として違いをつけると、ジャズの世界でサクソフォンは、とりわけアイデンティティーを確立した楽器と言えるでしょう。というのも、ジャズのフレージングはサクソフォンの器用さと音色の特性に基づいて作られているところもあるからです。それゆえ完全な地位が確立され、ジャズの典型とも言われるまで発展しました。クラシック音楽の中ではサクソフォンはどちらかというと他の楽器に倣って使われていると言えるでしょう。私達は他の器楽作品をサクソフォンのために編曲した作品も多く演奏します。ですが、今日の創造性の観点から見て、ジャズ・サクソフォンには楽器を操るという点について大きな革新は無いように思われます。その点ではクラシックの分野では常に新しい発見や新しい奏法が生まれ、驚かされることがあります。まだ発展し続けるクラシックの世界では約20年ごとにレパートリーがまるっきり変わっていくのです。

音色の扱いについては、逆説的に言えばサクソフォンはジャズの中でどう鳴るかが自然に重視され、開放的な音を出せる開きの大きいマウスピースがよく使われたりもしますが、それはサクソフォンを発明したアドルフ・サックスの考えていた使用方法とはかなりかけ離れたものになったと考えています。今日のクラシックのほうがアドルフ・サックスの考えに近いかどうかは確かではありませんが、音色の倍音の種類がはるかに多いとは言えるでしょう。例えば音量について、クラシックでもかなり大きい音量でも演奏しますが、その50,000分の1小さい音量も出すことができます。

——サクソフォンの国と言われるフランスにおいて、フランスならではのサクソフォンの音や音色というのはどのようなものでしょうか。そして、あなたが求める理想の音とは？

私は音色を作り出す時に一番重要なのはその人の母国語だと思っています。母国語が音色の違いを感じ取る方法を明確にします。ルチアーノ・ベリオ氏によると、人間は言語学的に分けられたそれぞれの地域で楽器をその土地の言語に応じて発展させてきたそうです。私たちの話すフランス語には鼻母音が多く使用されます。そして管楽器の中では特にオーボエ、クラリネット、サクソフォン、ファゴットはかなり鼻にかかる音の楽器だと言えるでしょう。ですのでフランス人の耳にとってこれらの楽器はどこか身近に感じられるのです。反対にドイツ人などはフランス人に比べて金管楽器に近いと言えるかもしれません。イタリア人は若干高めの声で話すのでヴァイオリンやフルートなどの高音楽器に近い。私にはそういったところからくる楽器と人との相性も存在すると思います。

しかし、私の理想の音というのはフランス人の音色とは言いません。私が好きなのはフランス人が外国で学ぶことにより、あまりフランス人らしい音ではなくなり、アメリカ人がフランス人のような音を出せるようになることがあります。なぜならそのアメリカ人はフランス人のような音を出しても演奏自体は全くフランス人のものとは同じではないからです。私はこの現象が



サクソフォン界で今起きている最中だと思います。以前に比べて世界各国で音色の影響を受け合っていると感じます。例えば、シカゴ大学の新しい教授となったティモシー・マカリスター氏の音色がとても好きです。私達のフランス系の音に比べれば音色が開いているし、喉の使い方も違うことは確かですが、良いと思う点は色々な国や文化に影響を受け試行錯誤された結果と言えます。

私の中で本当の理想の音色という固執したものはこれといってありません。この音色が理想で、これは理想ではなくて…ということを言うことはできません。実際に手本となるものはないんです。

—— 教育にも熱心に取り組んでいらっしゃいますね。今回、静岡では公開レッスンもありますが、教えることはご自身の演奏にどのように結びついていますか？

私にとって演奏活動と教育活動は切り離すことのできないものです。私は音楽を他人と分かち合いたいという欲求無しに演奏することはできません。分かち合う相手は時に自分の生徒達であったり、観客であったりしますが、それらはどちらも少し似ています。私は教育的なコンサート、そしてスペクタクル風（コンサートの様な）授業と言うコンセプトを持っています。

教える時に楽器を演奏することも好きですし、音楽の話をするのも大好きです。技術やソルフェージュ的なことばかりではなく、音楽のスタイルやもっと深い哲学的な言葉、文化的な背景等を交えてより生徒が演奏したいという気持ちが持てる様に誘導することを心がけています。それと、サクソフォンのレパートリーを伝承していくこともとても重要な役割だと考えています。

—— 日本人の学生とフランス人の学生の違いはありますか？

はい。それは先ほど述べた言語の違いもあり楽器の発音等での違いはあると思いますが、学習方法の違いからもきています。日本の学習方法はフランスより合理的ではなく、実用的だと思います。日本でとても盛んな吹奏楽の中で、集団で演奏するためでしょう。フランスではほとんどが個人レッスンなのでヨーロピスティックです。これは文化の違いからきているものでしょうね。現在は多くの日本人サクソフォン奏者がパリで教育を受けていますし、逆に日本のサクソフォン奏者の第一人者といえる須川展也氏はヨーロッパでも大きな影響を与えたし、ヨーロッパで彼の演奏が好きな人はとても多いと思います。

大きく分ければフランス、アメリカ、日本、スペインでもそれぞれの流派が確立され違いはもちろんそれぞれあります。それでもそれぞれが影響を受けて成長しており、たいへん素晴らしい環境にあると思います。

—— 今回、2007年にAOIが委嘱したストロッパの作品を再演されますね。第3版となるわけですが、初版との違いなど、この作品について教えてください。

初版との違いはとりわけエレクトロニクスのパートに現れています。初版はとてもシンプルで実験的な感じでしたが、第3版は以前に比べて細部までよく作り込まれており、エレクトロニクス・パートのオーケストレーションがより構築的で質の高いものになりました。サクソフォン・パートも加筆され、以前は作曲家が下書きしていた部分も含めて今回一つの作品として完成させました。

静岡で再演するにあたって非常に興味深い点は、前回の初演とは違い現在この作品はサクソフォンのレパートリーの一部となったということです。エレクトロニクスのパートも初演に携わった技術スタッフ以外の専門家でも簡単に理解することができる様になり、現在この作品はどのような場所でも演奏することができるのです。私の生徒も6月に演奏する予定ですし、これからも様々な場所で他の演奏家によって演奏される機会が増えていくことでしょう。

—— 今回のプログラムでは、P.ブーレーズ、L.ベリオといった、サクソフォンにとって、さらには音楽史上的観点から見ても、重要な作品が組み込まれています。プログラムについておきかせください。

今回のプログラムのメインは野平一郎氏の新曲です。それと同時にストロッパ氏の作品を再演したいという願望がありました。なぜならこの曲はAOIと交流を持つきっかけとなった曲だからです。そしてブーレーズの作品は野平氏の希望によります。というのは、今回のプログラムはIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）との大きな関わりがあります。そのIRCAMを創設したブーレーズへのオマージュとして選曲されました。その他にはサクソフォン・ソロによるグリゼーとベリオの作品を演奏します。グリゼーはスペクトル楽派の創始者とも言える作曲家です。彼は私のとても良い友人の一人でもあり、良く一緒に仕事をしたものでした。そのお陰でグリゼー氏はサクソフォンを加えたオーケストラ作品も多く作曲しています。私は、今回の作品がたとえバス・サクソフォンのために作曲されたものであっても、サクソフォン独奏のレパートリーとしても重要な位置にあると認識しています。そしてベリオの作品についてですが、ここにもIRCAMとの関係があります。なぜならこの、クラリネット

もしくはサクソフォン独奏のための《セクエンツァIX》は、ベリオがIRCAMの教育責任者であった期間に作曲されたからです。ベリオは当初この作品をエレクトロニクスとの作品にしようとした試みをしていました。結局諸事情があり独奏になってしまいましたが、エレクトロニクスを使うという計画も存在したのです。

—— 今回の委嘱作品について、教えてください。

この野平氏の作品で注目すべきところは、ソプラノからバリトンまでの4本のサクソフォンとエレクトロニクスを使用した30分ほどもある大作であり、サクソフォンを持ち替えて常に休みなく吹き続けるというところでしょう。この作品でのサクソフォンの使用方法から野平氏が作曲家であると同時にピアニストでもあるということを強く感じます。彼はピアニストとして高音から低音までそれぞれのサクソフォンを一つの鍵盤楽器のように使用しました。

いずれにせよとても興味深いところは人間的な側面です。この曲のテーマの一つに呼吸、というものがあります。呼吸は管楽器を演奏するためにとても重要なものですし、人間の生命維持にとって必要不可欠な存在です。また、コミュニケーションを取ることにも大事な役割を果たしています。なぜなら私たちは呼吸を使わなければ話すことはできないからです。それは生きることにとっての基礎であり、コミュニケーションの基礎であり、管楽器奏者にとっては音楽の基礎もあります。

私は野平氏の作品が大好きです。アルト・サクソフォンとピアノのための《アラベスク》、そしてアルト・サクソフォンとメゾ・ソプラノのための《舵手の書》、《サクソフォン四重奏曲》など、今までの彼のサクソフォンの作品の初演にはすべて関わってきました。私はフランスに、野平氏は日本に住んでいるのでいつも会うことはできませんが、彼は私にとって人生の盟友です。私達はパリ音楽院で共に学び、共に歩み、双子の兄弟のように共に進化してきました。この長期にわたる熱意にあふれたコラボレーションでまた再会することができ、とても嬉しく思っています。

—— コンサートを楽しみにしていらっしゃるお客様にメッセージをお願いします。

今回のプログラムはやはり現代曲やエレクトロニクスの曲で重めのプログラムになっていますね。音楽の歴史的に重要な作品ばかりです。

私にとって今回の演奏会は一つの挑戦でもあります。とても頑張りがいのある演奏会です。そしてそれを聴きに来てくださる観客の皆さんも、おそらく私も同じぐらいの気力が必要かもしれません。

私達は皆熱意を持っているのです。そして同時に、感激があり、活力がある。私は好奇心旺盛な日本の観客の皆さんのが大好きです。静岡でお会いできるのを楽しみにしています。

インタビュー：安井寛絵
訳：井上ハルカ

静岡音楽館AOIコンサートシリーズ 2012-13 "CONCERT HALL SHIZUOKA"
ブラヴァー・アンコール！

クロード・ドラングル サクソフォン・ライヴ II "Next"
Claude Delangele Saxophone Live II "Next"

10/13 18:00 開演(17:30 開場) [Pコード=154-504]
全指定 ¥4,500(静岡音楽館会員¥4,050、22歳以下¥1,000)

出演

クロード・ドラングル(サクソフォン)
ホセ=ミゲル・フェルナンデス
(IRCAM) (コンピュータ)
マクシム・ル・ゾー(IRCAM) (エレクトロニクス)

曲目

P.ブーレーズ：二重の影の対話
(サクソフォン版)

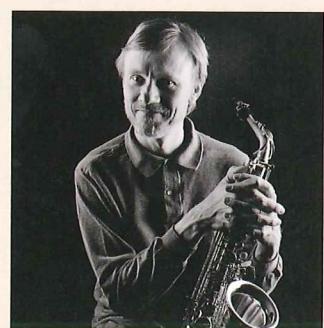
G.グリゼー：アヌビ=ヌー

M.ストロッパ：… of Silence
(静岡音楽館AOI委嘱作品・第3版)

L.ベリオ：セクエンツァIX

野平一郎：息の道～4つのサクソフォンを奏する1人のサクソフォン奏者とリアルタイム・コンピュータのための(2011-12)

(静岡音楽館 AOI 委嘱作品 IRCAM制作作品
日本初演)



©Arnaud Degardin

●ミニ・コンサート(10/10[水])【全自由¥1,500】

曲目/C.ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲

生誕150年 クラリネットのための第1狂詩曲

公開レッスンあり。 サクソフォンのための狂詩曲 ほか

受講生：池谷隼人、伊藤真奈美、津村美妃、ソレイユ・カルテット

●講演会(10/13[土]講師：鈴木純明)【無料(要申込)】

七夕 をめぐって

「七夕」といえば7月7日の夜に

天の神様によって離れ離れになった織姫と彦星が

天の川を渡って逢いに行くという物語で

皆さんに知られています。7月7日の夜、

静岡音楽館AOIでは「七夕」をテーマにした

日本各地に伝わる伝統芸能を紹介する

「日本の響きでつづる 七夕のまつりに」を開催いたします。

また、静岡科学館る・くる、静岡市美術館

「七夕」に関連するイベントもご紹介！

展覧会 七夕の美術 —日本近世・近代の美術工芸にみる

■会場/静岡市美術館

■開催期間/6月23日(土)～8月19日(日)

前期:6月23日(土)～7月22日(日)

後期:7月24日(火)～8月19日(日)

■休館日/毎週月曜日 ただし7月16日(月・祝)は開館、翌17日(火)は休館、8月13日(月)は臨時開館

※会期中展示替えを行います。

■開館時間/10:00～19:00(展示室入場は閉館の30分前まで)

■観覧料/一般¥800(600)、大高生・70歳以上¥600(400)、

中学生以下無料

※()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方および介助に必要な方は無料

■主催/静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社、静岡放送

■後援/静岡市教育委員会、静岡県教育委員会 ■助成/芸術文化振興基金

本展では京・冷泉家の「乞巧奠 星の座」を特別出品するほか、浮世絵や近代日本画の名品、そして日本独自のもう一つの七夕・天稚彦物語絵巻などを紹介することで、いつの世もかわらぬ「星に願いを」という思いをお届けします。



橋本花乃〈七夕〉二曲一双 大阪市立近代美術館建設準備室

ミュージアム カフェトーク

七夕の星たちはいったいどんな星なのでしょう？ 最新の研究成果をもとに天文学者がわかりやすく解説します。じっくり聞きたい人、気軽に科学者とお話ししたい人、どちらに参加しますか？



講師
国立天文台副台長
渡部潤一

★じっくり聞きたい人は…

七夕の星空講演会

■日時/6月30日(土)13:30～14:30

■会場/静岡科学館る・くる 9階イベントホール

■定員/160名 ■対象/どなたでも

■募集開始/6月10日(日)9:30～電話申込

■参加費/無料(ただし大人の方は要入館料¥500)

★気軽に科学者とお話ししたい人は…

ガレージトーク

■日時/6月30日(土)15:00～15:30

■会場/静岡科学館る・くる 10階ガレージ

■定員/なし ■対象/どなたでも

■募集/直接会場へ

■参加費/無料(ただし大人の方は要入館料¥500)



静岡市美術館 AOI × 静岡科学館る・くる × 静岡市美術館 共同事業

日本の響きでつづる

七夕のまつりに



7/7日 18:00開演(17:30開場) [Pコード=416-609]

全指定 ¥4,000(静岡音楽館俱楽部会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

■朗詠《二星》(藤家流・近藤静乃復曲) / 伶楽舎[石川高、八木千曉、田渕勝彦、村岡健一郎(歌)、宮田まゆみ(笙)、角田真美(龍笛)、中村かほる(琵琶)]

■義太夫《杉酒屋》の段(妹背山婦女庭訓より) / 竹本綾之助(淨瑠璃)、鶴澤三寿々(三味線)

■琉球舞踊《かせかけ》/志田真木(琉球舞踊)、比嘉聰、新垣俊道、仲村逸夫(歌、三線)、宮城英夫(笛)、宮城秀子(笙)、又吉真也(胡弓)

■寺嶋陸也・箏歌《星合曲》(静岡音楽館AOI委嘱作品) / 鈴木真為(歌、箏)
[協力] 静岡市美術館 静岡科学館る・くる

気軽に聴けるミュージアムコンサート

《乞巧奠祭壇 星の座》の前で聴く

「乞巧奠/星合曲」

完売

■日時/6月23日(土)

19:15開演

(19:00開場)

■会場/静岡市美術館

展示室

■全自由¥1,000

■定員/50名

■出演/鈴木真為(歌、箏)

■曲目/寺嶋陸也:

箏歌《星合曲》(静岡音楽館AOI委嘱作品)ほか



《乞巧奠祭壇 星の座》
冷泉家時雨亭文庫

「雅楽: 星空の調べ」

■日時/7月6日(金)

19:00開演(18:30開場)

■会場/静岡市美術館 多目的室

■全自由¥1,000

■定員/100名

■出演/伶楽舎[宮田まゆみ、八木千曉、田渕勝彦]

■曲目/平調音取、越天楽、五常樂急星の音取、一柳慧:独奏笙のための《星の輪》、陪臤



鈴木真為
(歌、箏)

《星合曲》は、織姫と彦星が一年に一度だけ出会う七夕の物語をテーマに、古代中国より日本に伝わる「乞巧奠」の祭祀に発想を得て、宮中御神楽の儀の時間構造をモチーフにしつつ、寂蓮法師の和歌と山上憶良の七夕歌より構成された作品です。

一七夕の逢ふ夜の庭におく琴のあたりにひくはささがにの糸一寂蓮法師の和歌により《星合曲》の音楽は始まります。「星合」とは七夕の別名で、一年に一度しか会うことが出来なくなった織姫と彦星の切ない想いを綴ったストーリーが作品の中で表現されています。現代の私達が七夕の夜に願い事を唱えるように、天空から舞い降りた星合曲の世界に箏の弾き歌いでいざなうことができたらと願って演奏したいと思います。

夏の星空を観察しよう

■日時/7月29日(日)18:00～20:30

■会場/静岡市美術館、森下小学校

■定員/30名

■対象/小学4年生～中学生(小学生は保護者同伴)

■会費/無料(ただし保護者の方は要美術館観覧料¥600)

■募集開始/7月14日(土)9:30～電話申込

静岡市美術館で行われる展覧会「七夕の美術」で七夕について学んだ後、天体望遠鏡と双眼鏡で星空観察をしてみましょう。雨天・曇天時は静岡市美術館で工作と太陽系から宇宙の果てまでご案内する映像プログラム「星空散歩」を行います。



©NASA

美術館で工作と太陽系から宇宙の果てまでご案内する映像プログラム「星空散歩」を行います。

〈お問合せ・申込先〉静岡科学館る・くる
〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ
TEL. 054-284-6960 FAX. 054-284-6988

第60回 清水七夕まつり

■日時/7月5日(木)～8日(日)

5(木)、6(金)、8(日) 10:00～21:00(予定)

7(土) 10:00～21:30(予定)

■会場/駅前銀座アーケード街～

清水銀座商店街(静岡市清水区)

■アクセス/JR清水駅から徒歩1分、静鉄新清水駅から徒歩5分

静岡市清水区の中心地、清水駅前銀座と清水銀座通りを結んだ商店街を中心にしたお祭りです。竹と紙を使用するという古来の型を守り続け、七夕まつり古来の優美さを保ちながら、新鮮で創意工夫ある華やかな飾りが商店街を埋め尽くします。

〈主催・お問合せ〉清水七夕まつり実行委員会
TEL. 054-353-3401

織姫と彦星は、なぜ、7月7日の夜しか逢えないのかー。
日本の伝統音楽に聞く、その愛の物語。

ミュージアム カフェトーク
七夕:コンサートと展覧会ができるまで

■7月1日(日)16:00~17:30

■静岡市美術館・多目的室

■ゲストスピーカー/田村博巳

(演出家、国立劇場芸能部副部長、
静岡音楽館AOI企画会議委員)

■コーディネーター/吉田恵理(静岡市美術館学芸員)

■定員/70名

先着順・申込不要・当日直接会場へ

[主催] 静岡音楽館AOI×静岡科学館るくる

×静岡市美術館

指定管理人(公財)静岡市文化振興財団

TEL.054-273-1515



静岡音楽館AOI学芸員
竹内 啓

学芸員雑記

琉球舞踊

沖縄で地元の家庭に伺うと、多くのところで三線を目にする。お酒を酌み交わし酔いが廻ると、誰とはなしに三線を手に取り歌い始め、それにあわせて大音量の笛を吹き、若いも若きも「カチャーシー」を踊り出す。尚家琉球王朝の時代から今日に至るまで、沖縄の伝統芸能として「琉球舞踊」はウチナンチュー(沖縄の人)のDNAに深く刻まれている。

琉球舞踊には大きく分けて「雑踊」と「古典舞踊」とがある。「雑踊」は琉球王朝崩壊後、庶民の心を反映して主に沖縄芝居の中から誕生した。庶民の生活の断片を題材にしたもので、どちらかというと軽快な音楽にのせたコミカルな踊りを取り入れたものが多く、鎌や鉤、ザル、櫂のような小道具も用いられる。私の出身大学である琉球大学に「八重山芸能研究会」というサークルがあったが、海外演奏旅行中、空港の手荷物検査でその小道具が危険物として引っ掛けられ、うまく説明ができずその場で踊るはめになったという笑い話は、仲間うちで今でも語り草だ。

一方「古典舞踊」は、琉球王朝と一部の士族階級の間で発展した。この中には、威厳、枯淡、慈愛にあふれた「老人踊り」、華麗、清純、若々しさを感じさせる「若衆踊り」、古典舞踊の中心をなす「女踊り」、沖縄固有の武術「手」の技法を取り入れた男の踊り「二才踊り」、男と女、士族と百姓といった対称となるものが組み合って踊る「打ち組み踊り」がある。この中で「女踊り」は、琉球舞踊の象徴である色彩の鮮やかさ、華麗さを印象づけるもので、特に原色系を施した紅型衣装に大きな花笠をつけて踊る場面は、いつ見てもほほえむ。手足の先まで神経を凝らし、ゆっくりとした動きの中で流れる体の線は、思わず息をのむ美しさだ。

愛すべきウチナンチューの伝統。この伝統芸能である「琉球舞踊」を、日本の宝としては是非多くの方に触れていただきたい。

琉球舞踊
の
代表作

- ・「かせかけ」、「四つ竹」(女踊り)
- ・「前之浜」(二才踊り)
- ・「鳩間節」、「合茶前」(雑踊)

第17回「静岡の名手たち」オーディション合格者決定!

5/3(木・祝)鍵盤楽器・邦楽部門、5/4(金・祝)アンサンブル・管楽器部門

この度、第17回「静岡の名手たち」オーディションが行われ、応募総数69組から10組の方が合格しました。合格者のみなさんは9/15(土)第17回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサートに出演します。あなたも新しい才能が羽ばたく舞台にぜひ!

[鍵盤楽器部門] 岩瀬健人(ロマン賞)、岡田沙也佳(コンセルト賞)、鈴木梨紗、山本佑里子(以上ピアノ)
[邦楽部門] 金子昇馬(箏)

[アンサンブル部門] 京極朔子、佐伯麻友(ヴァイオリン、ピアノ)、榎原花梨(クラリネット八重奏)

[管楽器部門] 繩巻花笛(フルート)、松永遼(トロンボーン)、山下恵莉(ホルン) ※各部門50音順

第17回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート

9/15(土)18:00開演(17:30開場)

全自由¥1,800(静岡音楽館俱楽部会員¥1,620、22歳以下¥1,000)

第7期「ピアノ伴奏法講座」受講生決定! 講師随時募集中!

2006年より毎年開催している「ピアノ伴奏法講座」。第7期受講生6名が決定しました。9/22(土・祝)から3/17(日)の修了記念コンサートまで、3名の講師の指導のもと、全10回の講座を行います。

受講生 / 川瀬愛、日下知奈、坂巻貴彦、田中玲奈、寺島有華、横路裕子

日 程 / 2012 ①9/22(土・祝)、②23(日)、③11/3(土)、④4(日)、⑤12/8(土)、⑥9(日)、
2013 ⑦2/2(土)、⑧3(日)、⑨3/16(土)、⑩17(日)

内 容 / 〈奇数回〉13:30~19:30 実技レッスン

〈偶数回〉10:00~19:30 アナリーゼ

講義~奏者の視点から~②④/ピアノをめぐる音響を考える⑥⑧
実技レッスン

①、②はヴァイオリン、③、④はチェロ、⑤~⑧はトリオ、⑨は両者、⑩は修了演奏会を開催予定。

会 場 / 静岡音楽館AOIホール(8階)、及び講堂(7階)

講 師 / 野平一郎(作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI芸術監督)、漆原啓子(ヴァイオリン奏者)、
向山佳絵子(チェロ奏者)、倉田尚彦(株式会社松尾楽器商会 調律師)*⑥⑧講義講師

聴講料 / 一般: 奇数回¥2,000 偶数回¥3,000(第10回を除く) 22歳以下: ¥1,000
10回通し券: 一般¥20,000、22歳以下¥9,000

第2回「アマチュア・アンサンブルの日♪」

11/11(日)12:00開演(11:30開場)*20:00終演予定 無料(申込不要)

*ただし定員によりご入場をおこなう場合があります。

*託児サービスはありません。

*このコンサートは未就学児でもご入場いただけます。

「静岡・室内楽フェスティバル2012」で行なわれる第2回「アマチュア・アンサンブルの日♪」の出演者24組が決定! 入場無料のコンサートで、様々な楽器が鳴り響くアンサンブルをお楽しみいただけます! いつものコンサートより開放的で、クラシック初心者の方も安心。演奏する方も、演奏を聞く方も、みんな一緒にAOIのホールで楽しめませんか?

出 演 / アンサンブル・ブリューム(弦楽アンサンブル)、NKB48(ヴァイオリン二重奏、ピアノ)、オカリナ・アンサンブル“アミコ”、オーケストラ・スプラウト(リコーダー)、おさかなクインティット(ピアノ五重奏)、ギター・アンサンブル サウンド・オブ・ドリーム、グループ 糸遊(邦楽)、サクソフォン・アンサンブルPICO、静岡県トロンボーン協会、静岡ハーマーダルシマー・アンサンブル、ダイアンス(プラス・アンサンブル)、トリニティ・トリオ(ピアノ三重奏)、トロンボーン・アンサンブル・セルジア・トロンボーン・アンサンブル「とろ」、バストラーレ アンサンブル、ハママツ ブラス アンサンブル、ふもとの風五重奏団(木管五重奏)、フレンズ(マンドリン、ギター)、Por Venir(ヴァイオリン、ピアノ)、Marimbangbang!(鍵盤打楽器、ピアノ)、美琴音(箏、リコーダー)、mille-feuille(フルート四重奏)、ヤマダ木管五重奏団、ラリレロ(弦楽アンサンブル)(50音順)

CONCERT SERIES

コンサートシリーズ 2012-13 [第2期] の聴きどころ

10/30 国 ウィーン・フィルのメンバーとの三重奏

世界最高峰のオーケストラであり、全世界のクラシック・ファンが常に注目するウィーン・フィル。そのメンバー2名が、共演を熱望し実現する野平一郎との三重奏は、クラシック・ファン必聴のコンサート。3人のヴィルトゥオーゾの至高のアンサンブルをご堪能下さい。

11/1 木 庄司紗矢香 ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル

卓抜した技術に裏打ちされた表現力。限りなく透明で美しく、ときに烈火のような激しい演奏で聴衆を圧倒する庄司とカシオーリ。ソリストとして世界の名立たる指揮者、オーケストラと競演を重ね、巨匠の風格すら漂わせるこの2人のアンサンブルは、滅多に出会えない極上の世界へ私たちを誘う。

11/17 土 AOI・レジデンス・クワルテット

このメンバーになって10年の2011年11月、満を持して挑んだベートーヴェンの弦楽四重奏曲第7番は、4人それぞれの際立つ音楽性が見事に融合した名演奏であった。今年はその第2弾として同曲第8番(ラズモフスキイ第2番)をラインナップ。第2楽章モルト・アーデジョは、私たちの心を癒す。

11/22 木 ジャパン・ギター・カルテット

日本が世界に誇るスーパー・ギタリスト4人が集結し、そのテクニックを余すところなく披露する濃密な一夜。この4人についてのステージで出会えることは滅多にないことではない。バッハ、ラヴェルのクラシックの名曲から日本のカリスマ、坂本龍一の作品まで幅広いレパートリーで皆様をお迎えする。

当日の午後から夜にかけ、「生誕100年・没後20年」たるジョン・ケージにしっかりと浸った。美術館での版画展に足を運び、コンサート本番にむけての白石美雪（武蔵野美術大学教授・音楽評論家）のレクチャーを聴き、そしてコンサートそのものでは音・音楽を聴くのみならず、演奏を、ダンスを視覚的にも触覚的にも体験したのだったから。

ケージにおける“聴ぐ”才能について言及し、音楽が自然の音のように“作用”することを目指したと指摘した白石は、特殊な图形楽譜を映写しつつその解説方法と実際に演奏するためにやるべきことについて、具体的に例示する。さらに、コンサート本篇で同時演奏される《アリア》と《ピアノと管弦楽のためのコンサート》（以後《コンサート》と略記）という二つの作品がいわば兄弟のような関係にあることを実証的に示した。

コンサートに先立つレクチャーはときにおこなわれるけれど、これほど演奏される作品について明確な指針を示してくれることはなかなかない。実際、高橋アキと吉川真澄が“同時演奏”した二作品に、何も知らぬまま遭遇するのと、通常の楽譜からはかなり隔たったものを受けして適當やいいかげんではなく、ひとつのプロセスを経たうえで“演奏”、あるいは“発音”しているのだとアタマでわかっていることは大きな違いがあるのだから。

ただ、ケージが“作曲”し、演奏家が具体的に“音”を発した、ひとつひとつの具体的な音—高さがあり、長さがあり、異なった音色があり、強さがある—に対して、文字どおり“体感”し、驚くことが、知識=アタマを経由しているがゆえに、ずれてしまうことがないか、という懸念がないわけではない。何も知らずに、何かやっている、音がでている、という体験と、音のさまざまなりようを聴くのだと意識しつつ“聴ぐ”体験と。

それはまた、たとえば“同時演奏”において用意された多数の音具

にもいえる。二人の演奏家は通常の楽器以外のモノを吹いたり叩いたりする。それらを観客は目で追い、音を聞く。どんな音かを知る。こんな音がするのか、とおもう。大抵の音具は一回きりだ。何回も手にされれば、観客は“あの音”だと先にわかってしまいさえする。そうしたこと为了避免するために音具は多くなる。ある種の不経済を感じないではない。

もうひとつある。

图形楽譜で作曲を始める以前、ケージはプリペアド・ピアノを開発し、楽曲をつくっていた。この「プリペアド=準備された(prepared)」という語にあるニュアンスは、その後の偶然性(chance operation)を用いた作曲とおよそ対極にあるとわたし自身はみていたのだったが、よく考えてみれば、图形楽譜の作品もその演奏のためには少なからぬ手間をかけなければ演奏に至れないという意味では、同程度に「準備」されたものであり、方向性こそ異なるけれども、ケージ自身が演奏家に對して与えるもの、演奏家にとっての一種の負荷はひじょうに近かったのではなかったろうか。

すこし先走ってしまったので、あらためてコンサートを俯瞰しておこう。演奏されたのは三つの作品だが、真ん中におかれたのは二つの作品の“同時演奏”。その前、つまり第一曲にプリペアド・ピアノによる《危険な夜》があり、第三曲でありコンサートの締めくくりとして《フォー・ウォールズ》がある。サンドウイッチと捉えるなら、パンの部分は1944年の作品であり、具の部分はある共通なものを持った57-58年の作品。二枚のパンはといえば、片方が弦にはさまれたものによって音色に変化がつけられた《危険な夜》、もう一方の《フォー・ウォールズ》は白い鍵盤のみの、たしかに部分部分でのコントラストはあるけれどもドラマ性を欠いたひびきがつづき、それでいて両者はリズム・パターンとしてはつながっているところが見いだせるというつながりを持っている。

CONCERT REPORT

コンサートレポート

ジョン・ケージ：フォー・ウォールズ

3月10日(土)

小沼純一(音楽批評・早稲田大学教授)

どの作品についても高橋アキの姿勢は変わらない。淡々と、個々の音をたちあげ、そのたちあがった音のつながりが、聴き手のなかで、音楽として生成していく。プリペアド・ピアノの、ひとつひとつの音=色は、つづく《アリア》+《コンサート》の同時演奏のなかで、文字どおり異なる音源の発音としてつながると言つていい。吉川真澄のダイナミックな発声と驚くほどの声の変化、ステージ上での動きの大膽さは、ヴェテラン高橋アキの発音と身振りとみごとに“同時併行”していた。なお、視覚的な二人のブラウスの色、オレンジとグリーンのコントラストについても、言及しておく必要があるだろう。

コンサートの重心となる《フォー・ウォールズ》はほぼ一時間かかるダンスのための大作で、このコンサートでは田中泯、石原志保が踊る。ステージの照明はかなり暗く、黒い四つのポール、張りわたされた赤いポール、骨格のある球体とでもいいうような大きなオブジェ、遮幕といったもののあいだに、身体が見え隠れする。もともとのダンスは現代的な悲劇性をもったストーリーを持つが、音楽そのものはそのストーリーをなぞらない。なぞらないけれども、何らかの重さが支配しつづける。二人のダンサーは、ゆっくりと動き、ある停滞感を紡ぎだす。球体は左から右に、右から左へと、とても緩慢に、回転しながら(舞台スタッフにより)移動させられる。ドラマはないわけではない。いや、しっかりあるのだが、それはひたすら遅延され、宙づりにされる。そしてそのぶん、徐々に徐々に、確実に、石原志保の、ほとんどといつてもいいくらい、頸を曲げ、あたまをうしろにしつづける無理な姿勢の持続が、カタストロフを暗示し、つねに観客に現前しつづける。二人のダンサーは、ながい時間をかけて、服がよじれ、靴を脱ぎ、裸足になっている。

そう、どちらかといえば、情緒なるものと無縁、あるいはあっけらかんとしたあかるさをもつ音のありようをつくりだすケージの作品のなかで、《フォー・ウォールズ》が「ケージ・イヤー」に演戲=演奏されることは、もしかすると、現在のこの列島の状況をどこか象徴的にあらわしているようにおもえなくもない。エンディングの重さを、わたしはいまでも、ふと、おもいだしてしまう。

なお、こうした一場があったこともつけ加えておこう。

カーテンコールのとき、野平一郎芸術監督が大きな花束を持って登場。高橋アキが十七年つとめた企画会議委員のしめくくりへのメッセージがおられた。アキさんに、この原稿においても、一札をおおりりしたい。



撮影:日置真光

AOI ゆかりの アーティスト

ピアノを始めたきっかけは?

父が声楽家、母がピアニストという環境に育ち、気が付いた時にはピアノを始めました。

やめたいと思ったことはありますか?また続けられたのはどうしてだと思いますか?

小さい頃は、何度もやめたいと思った事があります。それは、運動が大好きだったのでピアノの前に座って練習するよりも、外で友達と遊び回る事が好きだったからです。しかし、毎晩両親が私を寝かせ付けた後に練習を始める姿を見て育ち、幼心に「大人になってもずっと続けられる音楽は素晴らしいな。私も一生続けられたら良いな」と思った事を覚えています。おそらく、その気持ちがピアノを続けられたのだと思います。

好きな作曲家は?どんなところが好きですか?

特に好きな作曲家は「ラフマニノフ」と「ショパン」です。ラフマニノフの長い長いフレーズは、ロシアの広大な大地と自然を連想させ、ロマンチックな彼独特の和声との調和がとても好きです。また、ショパンの旋律の美しさは、どんな心境の時にも幸せにしてくれる所以大好きです。

留学先にロシアを選んだのは?

音大を目指していた頃、モスクワ音楽院の夏期セミナーを勧められ参加しました。そこでロシアの自然の美しさや、文化、芸術の素晴らしさに圧倒され、虜になりました。その後日本で、今は亡きE.マリーニン先生のレッスンを受ける機会があり「試験に合格したら、自分のクラスで勉強しなさい」と言われた事がきっかけでロシア留学になりました。

もしピアニストになっていなかったら、何をしていたと思いますか?

外科医になりましたかったです。

これからどのようなピアニストになりたいですか?

病院、介護老人保健施設、養護学校、児童養護施設などを周りながら、音楽を通じ人々と触れ合い、心のやすらぎを提供できるピアニストになりたいと思います。

ありがとうございました。コンサートを楽しみにしています。

静岡音楽館AOIの 市民会議委員ってどんな人?②

AOIがコンサートを制作する際には芸術監督、企画会議委員の意見の他に、音楽にゆかりのある方や公募により選ばれた委員で構成された市民会議の意見も反映しています。聴衆に近い視点から意見をいただくことによってより良いコンサート作りに努めています。このコーナーではそんな市民会議委員を紹介していきます。



北山敦康

(サクソフォン奏者、静岡大学教育学部教授)

サクソフォンとの出会いは中学校の部活で吹奏楽部に入ったことが始まりです。偶然やることになった楽器でしたがすっかりはまってしまい、それが高じて音楽大学へと進むことになりました。そんなわけで、他の音楽教育者と違い、小さい時

から音楽の専門教育を受けているわけではありません。私の受けた音楽教育の基礎は学校教育だけで、ピアノも音大入試の課題曲を弾くために高校2年生の秋から始めました。他の音楽教育者の大半が幼児期からの音楽教育を受けている中で、やや異質な存在だと思います。

音楽教育に携わる者として重視しているのは、音楽に対する興味、好奇心こそ音楽の楽しみであるということ。私自身も好奇心のかたまりだと思います。笛のような管楽器の類いなら何でも好きで集めています。いくつも持っていますよ。楽器とは言えない、ほとんど筒に穴があいただけのようなものも。見かけるとつい欲しくなってしまいます。どんなものでも息を入れればきちんと音になり、曲も吹けるんです。

AOIは様々な音楽を聴けるところがいいですね。特に日本の伝統音楽をああいうホールで聴けるのはすばらしいと思います。そして公的な施設だからこそ、採算は別にしてでも質の高いコンサートをやってほしいです。テクニックだけではない、その人にしかできない音楽が聴きたいです。音楽を勉強する者なら、CDを買うよりもコンサートホールに行って生の音楽に触れ、その感動をもって練習するほうが何倍も身になります。そのためにもAOIには頑張ってもらいたいです。(談)

第13回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業に選ばれ、10月にピアノ・リサイタルを行う眞田美恵奈さんにお話を伺いました。

眞田 美恵奈さん

ピアノ



第13回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業
眞田 美恵奈

ピアノ・リサイタル



ベートーヴェン:ピアノ・ソナタのタペ

10/26 金 19:00開演(18:30開場)

全自由 ¥3,000

(静岡音楽館倶楽部会員¥2,700、学生¥1,000)

曲目/L.V.ベートーヴェン:

ピアノ・ソナタ 第8番《悲愴》ハ短調 op.13

第13番 変ホ長調 op.27-1

第23番《熱情》ヘ短調 op.57

第28番 イ長調 op.101

モスクワ国立音楽院、国際ショパン・アカデミーを経て故郷・静岡に凱旋! ベートーヴェンの初期・中期・後期のピアノ・ソナタを探りあげる。

[後援] (社)全日本ピアノ指導者協会

前号から再開した「シェフ池田のおいしいレシピ」。「豚肉の玉ねぎソース」はお試しになりましたか? 魚焼きのグリルで焼いてみたところ、とてもやわらかく焼けました。玉ねぎの甘さと相まって、おいしくできましたよ。まだのかたはぜひ! さて今回はー?

水温50°Cの不思議!



シェフ池田の
おいしい
レシピ

ぜひ、お試しください。

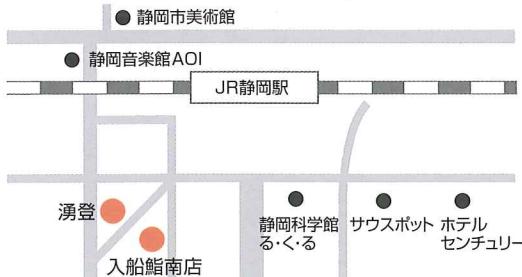


池田直樹 (バス・パリソン歌手 元・静岡音楽館AOI企画会議委員)

*蒸気工学の専門家=平山一政氏

大分県別府市生まれ。蒸気エンジニアリングを専門とする英国企業の技術職、早稲田大学社会システム工学研究所・食と地域環境研究室室長・客員研究员を経て、現在、スチーミング調理技術研究会代表・専門の蒸気利用技術の視点から調理における加熱に関心をもち、100°C以下の低温で蒸す調理法「低温スチーミング」を開発。全国各地をかけめぐって低温スチーミングの講座を開いている。

静岡市美術館 AOI × 静岡科学館 る・くる × 静岡市美術館 共同事業
チケットでスマイル
Ticket de Smile 加盟店の
Ticket de Smile加盟店は静岡街中に58店舗!
ぜひご利用ください。
※チケット記載の日付(期間)に限り、1回ご利用いただけます。
※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です。
(店舗によって異なる場合があります。)



野平一郎芸術監督 紫綬褒章受章

この度、静岡音楽館AOIの野平一郎芸術監督が平成24年春の紫綬褒章を受章いたしました。ここにご報告させていただきます。「一報を受けた時は信じられない気持だった。AOIの芸術監督としての仕事は自分の活動を凝縮した一つの姿であり、機会を与えてくれた静岡に感謝している。受章を機に、これからも多様な活動を絶え間なく続けていきたい。」
(野平一郎)

(静岡新聞4/28朝刊)



©相田憲克

福田進一企画会議委員 芸術選奨文部科学大臣賞受賞

この度、静岡音楽館AOIの企画会議委員を務めるギタリストの福田進一さんが平成23年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞されました。おめでとうございます。福田進一さんは、2012年11月22日(木)に静岡音楽館AOIで開催される「ジャパン・ギター・カルテット」に出演されます。ぜひご来場ください。



プラヴォー・アンコール! ジャパン・ギター・カルテット

11/22木

19:00 開演 (18:30 開場)

全指定 ¥5,000

(静岡音楽館会員券員¥4,500、
22歳以下¥1,000)

出演 / 福田進一、村治佳織、
鈴木大介、大蔵康司(ギター)

曲目 / 坂本龍一「プレリュード

西村朗:玉響

J.ブラームス:主題と変奏 op.18 (J.ウェーラムズ 編)

A.ビアソラ:タンゴ組曲

J.S.バッハ:ブランデンブルク協奏曲第3番 BWV1048 (J.スパークス 編)

M.ラヴェル:ボレロ (福田進一 編)ほか



撮影:日置真貴

静岡音楽館会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかにご記載までご連絡ください。

なお、平成25年度以降の退会をご希望のかたは、平成25年2月末日までに、静岡音楽館会員事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館会員 法人会員 (2012年5月末現在)50音順

- (株)アオイテック
- (株)SBSプロモーション
- かわした歯科クリニック
- コカ・コーラ セントラルジャパン(株)
- (株)サンタモニコーポレーション
- (株)静岡ターミナルホテル(株)
- (株)静岡博報堂
- (株)タミヤ
- (有)丸吉事務機
- 三菱電機(株)静岡製作所
- (株)メディアミックス静岡

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様の都合によるチケット代の返金、席席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を2階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- * 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません(平成24年度より)。

コンサートシリーズ2012-13

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静清信用金庫

協 賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

要事前予約・託児料: 1人¥1,000
すわん TEL.054-247-7477 (9:00~21:00)
託児サービス 留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

■ 鉄板焼 湧登 you-to

TEL.054-284-5777

静岡市駿河区南町7-9

営業時間 / 17:00~23:30 日曜日定休

【おすすめ】

広島風肉玉 ¥880 関西風豚玉 ¥780
岸和田かしみんネギ焼き ¥850

広島で修業した本格派のお好み焼きが食べられます。全国で4軒のみの沖田黒豚、マツキさんの無農薬野菜あります。



広島風お好み焼き1枚につき
ソフトドリンク1杯サービス

■ 入船鮨南店

TEL.054-282-1158

静岡市駿河区南町6-6

営業時間 / 11:00~22:30 火曜日定休

【おすすめ】

近海の新鮮な刺身類
板さんのおまかせにぎり



飲食代10%OFF
(ランチ、宴会は不可)



RECOMMEND

おすすめCD

AOIゆかりの音楽家の方々が
お気に入りの1枚を紹介します。



ザ・ケルン・コンサート/キース・ジャレット(ピアノ)
ユニバーサル ミュージック クラシック B00008KJU5

全て即興演奏によるライブ録音です。一瞬一瞬が音楽創造の至福を感じるCDです。

松原勝也(AOIレジデンス・クワルテット ヴァイオリン奏者)



シューマン:詩人の恋

- ①ディートリッヒ・フィッシャー=ディースカウ(テノール)
- クリストフ・エッセンバッハ(ピアノ)
ボリドール B000005FHWH
- ⑤フリッツ・ヴァンダーリッヒ(テノール) フーベルト・ギーゼン(ピアノ)
ユニバーサル ミュージック クラシック B0030AHBP4

毎年、春になると必ずひっ迫りだして、聴きたくなる1枚です。春が来て、日差しが変わって、湿度が変わって、花が一齊に咲きだし、華やいだ気分になると、なぜかいつも頭の片隅をT.S.エリオットの「荒地」の冒頭がよぎります。

—4月は最も残酷な月、—

聴き進めていくうちに、やがて心がほぐれて、また日差しの中へ出て行こうという気になるから不思議です。フィッシャー=ディースカウのCDジャケットは彼自身が描いた水彩画で、それにも心を動かされ、ヴァンダーリッヒの声に満たされながら、この後の彼の運命を想うと、なおいつそう心に響きます。 小林美恵(AOIレジデンス・クワルテット ヴァイオリン奏者)



シンフォニー ~ライヴ・イン・ウィーン~/サラ・ブライトマン
EMI MUSIC JAPAN(TO)(M) B0010AMW5Q

サラ・ブライトマン「シンフォニー ~ライヴ・イン・ウィーン~」は、人の内面にある喜びや悲しみといった心の内がアルバム全体のテーマとなって表現されており、その音楽から内包する世界観に共感を持ちとても好きなCDです。 鈴木真哉(笙奏者)



ラヴ・シーンズ/ダイアナ・クラール
ユニバーサル ミュージック クラシック B000793BB4

疲れた夜などに、ワインを片手にこのCDを聴きながら癒されています。

眞田美恵奈(ピアニスト)

JR静岡駅北口を出てすぐ左

静岡中央郵便局
併設ビル内7~9階

骏府博物館

静岡市美術館

松坂屋

至 浜松

至 東京

(有料) AOI

P (有料)

N

ホーリー

至 浜松

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅

至 東京

ホーリー

東海道本線・新幹線

静岡科学館

至 東京

当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

JR静岡駅

静岡市美術館

松坂屋

至 東京

パリセー

JR静岡駅